HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	巻頭の辞
Author(s)	中村, 睦男
Description	深瀬忠一及び小川晃一の肖像有
Citation	北大法学論集, 40(5-6上)
Issue Date	1990-08-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/17021
Type	other
File Information	40(5-6).pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

深瀬　忠一 先生

小川　晃一 先生

巻頭の辞

本特集号は、一九九〇年（平成二年）三月三一日に停年退官される深瀬忠一先生および小川晃一先生に捧げるために編集されたものである。

深瀬忠一先生は、一九五三年（昭和二八年）三月に東京大学法学部を卒業後、同年六月に北海道大学法経学部助手に就任され、同年八月の法経学部分離による法学部の独立に伴い法学部助手に配置換えとなり、一九五六年（昭和三一年）四月に法学部助教授に、一九六四年（昭和三九年）二月に法学部教授に昇任されました。この間三四年にわたり、深瀬先生は、専門課程の憲法、教養課程の日本国憲法、法学、総合講義「平和の学際的研究」、総合講義「フランス」を担当されるとともに、深い学識と学問に対する真摯な熱情をもって大学院教育にあたられ、多くの優れた憲法研究者を育成されてこられました。大学行政に関しては、一九七一年（昭和四六年）には学生部委員会の学寮小委員長として、大学紛争直後の旧学生寮における大学当局と寮生との断絶状態を正常化すべく、寮生との粘り強い交渉を重ねられ、先生のその真摯な努力は寮生の間で長らく語りつがれておりました。学部では、一九七八年（昭和五三年）一二月から二年間法学部長として、特に学部の研究態勢の充実のため尽力されました。

小川晃一先生は、一九五二年（昭和二七年）東京大学法学部を卒業後、北海道大学法学部助手を経て、一九五八年（昭和三三年）四月に法学部助教授に、一九六三年（昭和三八年）四月に法学部教授に昇任されました。小川先生は、三二年間にわたり、専門課程のヨーロッパ政治思想史、教養課程の政治学、総合講義「地域研究――アメリカ」を担当されるとともに、大学院では、多面的な問題関心と深い学識をもってヨーロッパ政治思想史および政治学の優れた研究者を養成されてこられました。小川先生は、教養課程の教育態勢の整備にも情熱を傾けられ、一九六九年（昭和四四年）の大学紛争の際には、力によらない紛争の解決の途を探るべく尽力され、同年一一月から一ヵ月余の期間ではありました

が、教養部長事務取扱を勤められ、長期間中断されていた授業を再開するための条件づくりに大きな役割を果たされました。法学部では、一九七六年（昭和五一年）一二月から二年間学部長に就任され、特に、学部改組後の学部運営のルールづくりにご苦労なされました。

深瀬先生および小川先生の教育研究活動で共通しておりますのは、今日の大学改革のキーワードともなっております、学際的研究と国際交流を早い時期から先頭に立って推進されてこられたことであります。まず、学際的研究について、深瀬先生は、理系の専門家を含めた北海道平和研究会を組織されて平和研究を進められ、総合講義「平和の学際的研究」はその延長線上にあります。小川先生は、文系学部の思想史関係の研究者を集めて思想史研究会を組織し、主宰しておりましたし、また、総合講義「地域研究――アメリカ」の中心メンバーでありました。つぎに、国際交流について、深瀬先生は、一九五七年からの最初のフランス留学以来、フランスの第一線の研究者と緊密な交流をもち、一九五〇年代からフランスの代表的な法学雑誌に日本憲法に関する論文を発表し、文化の輸出のために貢献されました。一九七七―七八年パリ大学大学院での日本憲法の講義とその成果の公刊は、その大きな到達点を示すものであります。深瀬先生が一九八一年にポワチエ大学から名誉博士号、一九八三年にフランス政府から文化功労賞を授与されましたのは、先生の日仏交流の功績に対するフランス側の評価を示すものであります。小川先生にありましても、最初の留学地であるイギリスとの交流はもとより、アメリカについても、一九八〇年より札幌市で毎年開催されている札幌クールセミナーの創立に参加され、その中心メンバーとして国際的なアメリカ研究会を支えてこられました。このような深瀬・小川両先生の果された教育研究への大きな貢献は、法学部の良き伝統として受け継がれてゆくものと確信しております。

一九九〇年（平成二年）三月

北海道大学法学部長　中村睦男